

上反町サロン

とんぼの会

上反町とんぼの会実行委員会
協賛：上反町自治会



上反町自治会では、第2土曜日の13時から15時、上反町に住んでいる人であれば誰でも利用できる地域サロン「とんぼの会」を運営している。異世代交流を大切にしている同自治会では、年に一度、子どもと地域とのつながりを意識したプログラム「樹名板づくり」と「スイカ割り」を「とんぼの会」と絡めて実施し、子どもとの触れ合いを楽しんでいる。

子どもは地域の宝



上反町自治会の戸張会長（写真右）と福地副会長（写真左）

上反町自治会エリアは高齢化率28%と高く、一人暮らしの高齢者が多い地域。平成28年10月、その特性や想定される課題に対して今後どのような取組をするのかを検討する「上反町プロジェクト（まちの課題検討会）」が立ち上がった。

プロジェクトは毎月の自治会の定例会の前、自治会役員、民生委員、主任児童委員が中心に集まり、区社協、反町地域ケアプラザも協力し話し合いを続けた。（平成30年夏まで）

その中で生まれたのが地域サロン「とんぼの会」。平成29年5月、高齢者の外出のきっかけづくりや地域交流を目指しオープンした。コーヒーを飲みながらの会話や歌、地域の歴史の話などを楽しんでいる。また年に一回、子どもと地域とのつながりを意識したプログラムを実施している。上反町自治会の戸張会長は「この町に住んで良かったと思える地域づくりを意識しています。子どもは地域の宝です。」と、子どもへのまなざしが優しい。



コーヒーを飲みながら会話を楽しむ地域の方々

子どもに地域の優しさや温かさを届けたい



主任児童委員の西川さん



民生委員の林さん



【地域サロン「とんぼの会」】

開催日時：第2土曜日 13時～15時

利用料：無料

対象：上反町町に住んでいる方ならどなたでも

会場：上反町自治会館

子どもと地域とのつながりを意識したプログラムは、午前は「樹名板づくり」、午後は「スイカ割り」を実施した。一日楽しめるプログラムにすることで子どもの参加を増やし、午後に開催されている「とんぼの会」での交流がスムーズにいくように工夫した。

「樹名板づくり」は、東横フラワー緑道第二愛護会が協力し、子どもたちが作った樹名板を緑道の樹木に取り付けることで、公園のないこのエリアの子どもたちが、緑道に興味と愛着を持ってもらうことを目的に実施した。PRはとんぼの会実行委員の西川さん（主任児童委員）のネットワークを活かし、桐畑、上反町、松本1・2丁目の子ども会に声をかけ25名の子どもたちが参加した。「住んでいる地域で楽しい思い出をたくさん作ってもらい、子どもたちに地域の優しさや温かさを届けたい」と西川さんは言う。

また、「樹名板づくり」は同愛護会の林さん（民生委員）がリードし、樹木の名前に、子どもが考えた好きなデザインを加え、個性的な樹名板に仕上がっていた。「樹名板づくりの楽しい体験から、親も子も緑道に愛着を持ってもらえたら嬉しい」と林さんは期待を語る。参加した保護者も「これから緑道を子どもと通るのが楽しみになりました」とほほ笑んだ。

午後の「スイカ割り」では、地域の方が見守る中、大きなスイカが割れるたび、子どもたちの歓声に包まれていた。スイカは「とんぼの会」の利用者にも配られ、子どもの笑い声があふれる賑やかな雰囲気の中で、スイカをほおばっていた。

このプログラムは今年で二年目。子どもたちが地域の人と顔見知りになることで、日常的に声掛けなどで見守ってもらえる効果も見込めるだろう。子どもを巻き込むこの取組は、子どもたちの思い出以上の効果がありそうだ。